

## まえがき

なぜ私たちは知らない言葉を学ぼうとするのだろう。なぜ自分の国の言葉を伝えようとするのだろう。言葉はたしかに、私たちが生まれるよりもずっと前からあった。言葉が生まれるまえには、世界があった。山や森、海が風が動き、音楽が聞こえていた。星は運行していた。草や花、動物たちがあらわれ、人々が姿をあらわした。人々はこどもを産み、村をつくり町をつくり、国を生んだ。その営みのなかで、人々は取り巻く世界のひとつひとつを名づけ、様々な気持ちや願い、思想を表してきた。

言葉を学ぶということは、そんな永い時間の流れという水に手を浸すこと。地上には、幾つも言葉があって、それぞれがそれぞれのやりかたで、世界を命名してきたのだが、言葉を学ぶとは、言葉を伝えるとは、そんな様々な言葉の流れを一つにあわせ響きあわせることではないだろうか。

2008年8月21日と22日、日本語教育に携わる仲間たちがベオグラードに集い、日本語教育について語りあいながら同じひとつの時を過ごした。この出会いが良き思い出となって、少し辛かったり哀しかったり、苦しかったりしたときに、優しい歌のように、あるいはアルバムの写真の一葉、古い玩具箱の積み木のように、ひとりひとりの心を暖めてくれたら、と願っている。この日に私たちと一緒にではなかった人にも、ここに集められた言葉が届けられ、日本語を学ぶこと、伝えることの意味とともに考えるきっかけとなったら私たちは幸せだ。この論集が、新しい時代の世界の日本語教育に、数々のメッセージを発信し、大切なテーマを提示できることを祈っている。

日本語教育連絡会議開催のために快く会場を提供してくださったベオグラード市立ジョルジエ・ヨヴァノヴィッチ図書館のミルコ・マルコヴィッチ館長およびスタッフの皆さん、そして学生のボランティアの仲間たち一人一人に、心から感謝申しあげる。連絡会議開催にあたって、渕上真由美、和田沙江香、ダニエラ・ヴァシッチ、ダリボル・クリチコヴィッチ、ディヴナ・グルマツ、イェレナ・ニコリッチ各氏と心をひとつにして、参加者のみなさんをベオグラードでお迎えできたことを、いつまでも忘れないことがないだろう。はるばる遠方から、この地を訪ねてくださった参加者のみなさん、またお会いできる日を楽しみにしています。いつか、どこかで。

ベオグラードにて  
山崎佳代子

☆この論文集作成に関して、くろしお出版よりご後援をいただきました。また、アルク、大修館書店、凡人社より協賛金をいただきました。